



授業者

山崎大輔教諭 西森昭仁教諭
ALT Alicia 佐藤

単元

Let's Try!2 「What time is it? 今何時?」
(全4時間)

単元計画

- 第1時 時刻や生活時間の言い方や尋ね方を知る。
- 第2時 世界の国や地域によって時刻が異なることを知る。
自分の好きな時間を伝え合う。
- 第3時 好きな時間とその理由を伝え合って、『4年生の好きな時間』をランキングにする。
- 第4時 『先生の好きな時間』をランキングにするために、
質問したり答えたり反応したりしながら、自分の好きな時間について伝え合う。

新学習指導要領 目標

(2) 話すこと[やり取り]ウ
サポートを受けて、自分や相手のこと身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりする。

CAN-DO リスト形式の学習到達目標

話すこと[やり取り]③サポートを受けて、自分や相手の好み及び欲しい物について、簡単な質問をしたり質問に答えたり、それに対して反応したりする。



グループ協議より

協議の視点『目的・場面・状況が子どもの実態に合ったものだったかどうか』

- ・ランキングを作るためのやり取りは、本当に子どもが興味を持って取り組めるような活動であったといえるのか?
- ・4年生の子ども達にどれだけ既習の力がついているのかによって、本単元でどんなやり取りが可能なのかが見えてくるのではないか。
- ・今日の活動はインタビューになってしまっているので、好きな時間の理由を聞く必然性が見えない。

中妻佳代准教授より



①学習指導要領を理解する

新学習指導要領には、中学年(外国語活動)の子ども達が身に付けるべき資質・能力として、コミュニケーションの素地を育成することが目標として示されている。日頃から馴染みのある知り合いとのやり取りをすることが求められる中学年にとって、初対面の先生方とのやり取りが本当にできるかどうかを考える必要がある。

※コミュニケーションの素地…「コミュニケーションって楽しいな!」「友達のことが分かった!」などと思えること

②単元全体で授業を考える

単元目標と本時の目標の整合性と、目標と評価規準の整合性を大事にしてほしい。そして、子どもに提示する活動目標と、教師がもっておくべき目標が一緒になってしまわないように気をつけるべきである。本時は、「自分の好きな時間を伝え合おうとする」ことが目標なので、難しい表現を扱うよりも、子ども達が「友達と伝え合うこと」を大事にした授業でいいのではないだろうか。

③移行期間中の授業づくり

児童の実態、単元の目標や評価規準に応じて、教材をうまく活用した単元計画をたてることがポイントである。子どもが「友達と伝え合えることができてよかった」と思って次の単元へ進めるようにしたい。

参観者より

➢コミュニケーションの目的・場面・状況の設定は本当に難しいが、子どもの反応を見取り、子どもに付けたい力との整合性を考え、常に意識をしていきたい。また、自校に持ち帰り、学校全体で考える時間をとることで、先生方の思考の幅を広げていきたい。

➢山崎先生が授業をされるこの単元は、自分自身も、ゴールにどういった活動を設定すればよいかを以前から悩んでいた単元だったので、一緒に考えることができて参考になった。

➢子どもの力になる授業をどのようにつくり上げていくべきかをみんなで協議する教材研究会は、大変勉強になった。